

令和 5 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： グループホーム 柿の木ホーム

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370200297		
法人名	社団法人 新和会		
事業所名	グループホーム 柿の木ホーム		
所在地	〒027-0063 岩手県宮古市山口5丁目3-30		
自己評価作成日	令和5年11月14日	評価結果市町村受理日	令和6年4月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

老人グループホーム柿の木ホームは山口病院に隣接し、周囲には山があり、緑豊かな自然に恵まれた環境にあります。職員は「今日もできた明日もできる!!」という理念を基に、利用者のできることを共に喜び、自信に繋げる関わりをしています。また、宮古山口病院が併設病院でもあり、医療面でのバックアップ体制が整っていることが、利用者、家族、私たちの安心感にも繋がっています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

病院、介護老人保健施設、保育園等を経営する医療法人が運営している事業所であり、医療と介護の連携が図られている。24時間の医療連携は、利用者や家族の安心につながっている。開所当時から理念「きょうも出来た、あしたも出来る」の具現化が図られ、利用者のできるを支援する体制ができています。利用者ができることに職員は手を出さず、できないところのみ手伝うという介護方針が貫かれている。利用者がそれぞれの役割を持って笑顔で生活できるよう支援され、利用者の様子をきめ細かく記載した計画書が家族に丁寧に説明され家族の信頼も厚い。今後はコロナ禍も落ち着いてきたので、地域密着型サービス事業所として地域とのつながりを強め、認知症ケアについても周知する活動に努めていきたいと考えている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年12月6日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 柿の木ホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「今日もできた明日もできる!!」という理念を念頭に置いて、日々利用者と関わりをもっている。	分かりやすい理念とそれを具体化する年度ごとの運営方針を掲げ、それに基づいて介護を実践している。利用者のできることを継続的に支援するため、「今日もできた表」により日々できることを把握し、役割を持った生活を支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流は行っていないが、年一度のオープンカフェには、保育園や地域の方に参加していただき交流を深めている。	10月末にオープンカフェを開催したところ、家族や地域の方、保育園の子供たち30名位が参加し、併設病院の院長から認知症のお話があったり、保育園児の踊りが披露された。この会に向けて利用者が協力して折り紙でぼんぼりをつくり、参加者にお土産として配っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	オープンカフェ開催では、併設病院院長による認知症についての講演会を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者の報告や活動状況の報告、高齢者虐待防止委員会の報告をさせて頂き、委員の方より、ご意見・ご指導を受けサービスの向上に努めている。	自治会長、家族、市担当職員、法人の関係者をメンバーとして、2か月に1回会議を開催している。防災や避難訓練、オープンカフェについて意見をいただき、過去2回運営推進会議で外部評価の審査を行なっている。	運営推進会議がより一層多面的な意見交換の場となるよう、また同会議の場を通じ、事業所の活動がより地域の方に理解を得られるよう、委員メンバーの拡大を検討されることを期待します。(例えば、利用者本人や民生委員、学校、警察、消防の関係者など)なお、各委員の避難訓練への参加など、地域とのつながりを深める取り組みも、事業所への理解を深める方法の一つです。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市職員に運営推進会議の構成員として出席して頂きご意見を伺っている。生活保護受給者に関わる問い合わせにも対応して頂いており、連携が図られている。	運営推進委員の市の担当者から各種情報提供や助言を得ている。生活保護受給者も入居しており、ケースワーカーと電話で連絡を取っている。市から虐待等の相談があり、緊急ショートを活用して保護したこともある。	

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム 柿の木ホーム

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを実践するために、身体拘束廃止委員会を開催し、委員の方からご意見・ご指導を受けている。また全職員がホーム内研修e-ラーニングで学ぶことにより、日頃から意識、実践につなげている。	年6回身体拘束廃止委員会を開催し、内容を職員に回覧している。どのような言葉がスピーチロックに当たるのか、具体的に書き出して気づきを促す研修を行っている。離床センサー、玄関センサーを活用し、利用者の安全を見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会の出席や、全職員がホーム内研修e-ラーニングで学び、虐待防止の徹底に努めている。日常の言葉遣いにも注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修会に出席し、成年後見制度について理解するように努めているが、制度を必要とする利用者はいないため活用までに至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約、改定の際は、その内容を説明し、本人、家族が理解、納得した上での締結となっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には必ず意見、意向を伺った上でサービス計画書を作成し、ケアの実践につなげている。	利用者の意向を探り、手伝いをしたい、折り紙が欲しい等の希望を叶えるよう支援している。家族には毎月利用者の様子を丁寧に説明している。管理者は、事業所での生活を通じ本人が安心して暮らしていると、家族が受け止めているとしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長は職員の要望等に耳を傾け、働きやすい環境に努めている。	毎日のミーティングやカンファレンス等で、職員の意見や提案を把握している。管理者は、資格取得や研修希望、勤務希望などの相談にのったり、職員の普段の様子を観察しながら声かけしている。ハラスメントについての職員アンケートを行い、困ったときの相談先を職員に周知している。	

事業所名 : グループホーム 柿の木ホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	e-ラーニングを導入しており、個々の時間で研修している。また、看護・介護休暇の取得ができるなど、働きやすい環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の他、毎月e-ラーニング、ホーム内研修の機会を設けており、職員の向上心につなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	おたより等で他グループホームの活動の様子を知ることができ、参考にしている。また、いわて地域密着型サービス協会の定例会には積極的に参加している。		

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始と同時に、できるだけ多くの情報収集に努め、関わっていくことで、本人も家族も安心して生活できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意向、要望等を把握し、安心してサービスが利用できるように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の段階では、家族等からの情報や、利用者の様子を観察し、暫定的サービス計画を作成し提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者個々のできることを共に行い、互いに助け、助けられ、協力し合う関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会はガラス越しではあるが、お互いの表情が見えるようにしており、遠方の家族にはオンライン面会の支援をしている。家族には最近の利用者の様子等をできるだけ伝えるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係性が途切れないよう、支援に努めている	ガラス越し面会とオンライン面会の支援の他、おたよりを通じて利用者の様子を伝えている。また利用者が手紙を出す際には、ポスト投函まで一緒に行うなど大切な人との関係性が継続できるように支援している。	毎月の利用料金支払いのため家族が来所した際に、利用者の様子を見ていただきながら様子を伝えている。利用者が家族等へ書いた手紙を投函することもある。思い出の街巡りの計画を立てドライブに出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士、相手を気遣う場面もみられ、顔なじみの関係を築いている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居者の殆どが体調を崩し入院している。併設病院に入院している方や、家族に会った時には声をかけたりなど、関係継続に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室担当者は利用者の思いを伺い、サービス計画書に反映させ、日々、思いに寄り添うような関わりに努めている。	自らの意向を話すことができる利用者は少なく、問いかけの工夫や利用者の表情、行動等から職員が推し測っている。利用者の希望や能力を活かし、役割を果たせるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員は実態把握調査票、アセスメント等で利用者の把握に努めている。ミーティングやカンファレンス等で情報交換し、共有し合っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の日常の観察と、個性を尊重した関わりをしている。ミーティングやカンファレンスでは、個々のモニタリングを話し合い、心身状態の把握に努めている。		

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム 柿の木ホーム

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族に意向を伺いながら、サービス計画書を作成している。また、毎日のミーティングやケースカンファレンスでは、生活上の課題やケアの継続等について話し合っている。また、「今日もできた明日もできる」という理念を基に利用者の「できる」を視点に置き、介護計画を作成している。	「今日もできた表」を活用して日々の細やかな観察を行っている。モニタリングは毎月職員のほとんどが参加して行われ、利用者に合わせた具体的な目標が介護計画に掲げられている。家族の来所時に職員の誰もが介護計画について説明でき、家族との信頼関係を揺るぎないものになっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌や介護記録には日々の様子、ケアする上での気づきや工夫を記入したことを、職員間で情報確認し共有しあいケアにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診は原則家族の付き添いとしているが、家族の都合や事情を考慮し支援している。また家族の緊急な事情により利用が必要とされる場合は、短期利用の受け入れを行い、利用者や家族が安心して過ごせるように支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	シルバーデイケア利用は利用者の楽しみになっている。また同一法人内の行事にも楽しんで参加しており、コロナ禍で会うことができないボランティアの皆様から手紙をいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者全員の主治医が併設病院となっており、適切な医療を受けている。また状況に応じて往診していただいている。	6名の利用者が入居前のかかりつけ医を継続受診している。3名は入居後に同意の上で併設の病院に変更している。併設病院の診察には職員が付き添い、家族に様子を伝えている。歯科、耳鼻科、眼科等の受診は原則家族が付き添い、診察結果の報告を受けている。病院の看護師が毎朝利用者の状態を確認している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は利用者の日常の健康状態の把握に努めているが、利用者に異変がある場合はすぐに看護師に報告し、受診につなげている。また家族にも利用者の経過連絡を行う等、利用者、家族が安心できる支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者の殆どが併設病院の入院であり、面会することで状態確認ができています。また互いに情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	認知症の重度化や寝たきりの方の介護については、家族と主治医との話し合いを持ちながら、家族の意向に沿った支援をしている。	重度化や終末期に向けた方針は作っておらず、看取りの事例はない。併設の病院との24時間の医療連携が利用者等や職員に安心を与えている。	事業所としてできること、できないことを明確にした上で、重度化や終末期にむけた方針を策定し、職員も共通の認識を持ちながら、早い時期に本人、家族等に説明することが望まれます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの設置をしているほか、消防署員による心肺蘇生法講習会を実施している。また、急変時の対応等連絡体制を備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災発生には様々な原因が考えられる事を想定において訓練を実施している。災害時も含め併設病院との協力体制がつけられている。	事業所独自の避難訓練を年2回消防署の立会いの下で行っている。そのうちの1回は夜間想定訓練としている。近くに住む法人勤務の職員が多く、非常時には支援・協力を得られる体制が作られている。反射式ストーブ、1週間分の食料等が備蓄されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個々を理解し、それぞれに合った声掛けと対応をしている。	利用者ができることを大切にしており、カレンダーの日めくりや新聞読みの好きな方への新聞の手渡し、洗濯物たたみ等、各自の役割が果たせるよう見守りが行われている。トイレ誘導などはさりげない言葉がけで行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けをし、確認をとりながら支援している。		

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム 柿の木ホーム

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の意思を尊重し、個々のペースに合わせた支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者が納得できるように、できないところは支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のできること、得意とすることを共に行い、利用者に対し労いの気持ちを大切に関わっている。	その日の当番の職員が献立を考えて調理している。法人内の管理栄養士によるチェックも受けている。野菜の下処理やテーブル・お盆拭き、盛り付けと、利用者は職員と一緒にいる。誕生会のメニューは担当職員が中心になって企画され、たこ焼きやりんご飴、綿あめなどが提供されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	茶碗、汁椀、箸は個人の物を使用し、利用者それぞれに合った食事形態や量を把握し支援している。またメニューについては、管理栄養士の指導のもとバランスの良い食事が提供できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯ブラシ、歯磨きティッシュなど個々の状態に合った用品を使用している。自力で口腔ケアが不十分な利用者には介助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者がトイレの場所がわかるように表示を大きくする工夫や、利用者の排泄パターンを把握し支援している。	オムツ使用の方が2名いるが、他の方は尿意もあり、職員のおさりげない声掛けでトイレで排泄できている。トイレの戸が閉まっているだけで利用できないと思い込む利用者もいるので、職員は様子を観察しながら誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取した際、個々のチェック表に摂取量を記入している。水分提供の時間には、なるべく残さず飲みきってもらうように声がけをしている。こまめに水分補給することで、便秘と脱水の予防になっている。また牛乳の提供により排便を促す場合もある。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 柿の木ホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に合った支援をしている	入浴は本人の意思を確認し、個々に合わせた支援をしている。	入浴は毎日可能で、午後に2、3名位ずつ入っている。入浴を嫌がる場合には、声掛けのタイミングを工夫し、できる限り週に2回は入浴できるように支援している。湯舟で鼻歌を歌ったり、職員とのおしゃべりを楽しんだりしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の皆さんが夜間安眠されている。日中はホールソファで寛いだり、自室で休まれる方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医や薬剤師の指導のもと服薬の支援を行っており、誤薬がないよう職員間で服薬確認合っている。軟膏塗布の方もあり、症状の変化や異常の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人や家族からの情報を確認し、余暇でやりたいことを楽しんで頂くように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周辺の散歩のほか、市街地のドライブは本人の希望に沿って出かけている。	施設周辺を歩いたり、時には近くの保育園まで足を延ばし子供たちを眺めることもある。春には桜の花を見にドライブし、最後に浄土ヶ浜で海を眺めて帰ってきている。併設の病院の売店に買い物に出かけたり、シルバーデイケアで行われる運動会や敬老会にお誘いを受け参加している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者が欲しいものがある時には、併設病院売店で買い物支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホールに公衆電話の設置のほか、手紙のポスト投函の付き添いを行っている。		

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム 柿の木ホーム

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	殆ど変わることのない環境で、利用者は落ち着いて生活している。各居室から出るとすぐに馴染みの顔を見ることが出来るホールがあり、安心して生活している。テーブルには季節の花を飾ったり、カレンダーを設置し、利用者がめくって日付確認している。	広々としたホールは明るく、エアコンとパネルヒーターにより快適な温度が保たれている。廊下が広く長さもあり、歩行訓練をしたり、いたるところに置かれたソファや椅子で思い思いにくつろぐ姿が見られる。クリスマス飾りも工夫され、利用者の作った折り紙や行事での写真等が壁面に飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内のいたる所に椅子とソファを置き、それぞれが気にいった場所でゆったりと過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を必要最小限に持ち込むことで、徐々に落ち着いた生活になっている。家族の写真や写真を置いている方は、写真をみて家族の名前や思い出話をするきっかけにもなっている。	畳の居室にベッド、洗面台、押し入れ等が備えられている。掃き出し窓から外に出ることもでき、戸を開けて外を眺めている利用者もいる。孫やひ孫の写真や飾り、自分の作った作品や大切なものを置いている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できるだけ安全に安心して行動できるように、ホーム内には手すりが設置されている。またトイレ、浴室に明示、居室には表札を出している。		